

# 言語の勉強と言語の遊び：

—ヒッポファミリークラブにおける観察—

ナイレップ チャド

## 1. はじめに

近年、外国語の勉強が増えている。それにもかかわらず、多くの日本人は外国語ができないとされている。Butler (2005) は 2003 年から文部科学省が小学校に外国語の活動を認めたと述べている。しかし、日本にある多言語（朝鮮語、ポルトガル語など）や隣り合っている国の言語（中国語、韓国語など）の導入が少ないと述べている。実際、「外国語の活動」とは「英会話」と理解されている。それに、英語を話せることでも上達が見られないらしい。

ところで、教育学者によると普通の言語教育は十分ではない。文法、または正確さに集中し過ぎるからである。Loveday (1983) は言語の多様性を無視することが悪い影響になると主張する。まず、「理想的な文法」を教えることは無理だ。それは人々の話すことは皆それぞれ違うからである。そして、理想的に話せない学習者の情緒が悪くなり、達成できたと考えられず、外国語の学習に対する意欲を失っていく<sup>1</sup>。一方、応用言語学者は「言語遊び」が効果的だと示唆する (Hatch 1980, Crystal 1998 など)。その上、Belz (2002) は単一言語話者に比べて、第二言語の学習者の話す力が欠けていると考えるよりもむしろ、まとめる力を賞賛するべきだと述べている。

しかし、本稿は社会言語学の立場から論じた物なので、言語教育学や応用言語学のように新しい教育方法を提案しない。その代わりに、本稿では日本にある多言語のサークルについて記述していきたいと考える。

天地ファミリー（偽名<sup>2</sup>）は西日本にある多言語のサークルである。天地ファミリーはヒッポ・ファミリークラブの分会だ。ヒッポファミリークラブは 1981 年に日本で設立され、今アメリカ、韓国、メキシコにある国際団体である。ヒッポのモットーは「7カ国語を話す、日常がある」ということだ (LEX Institute 2006)。ヒッポのメンバー達は勉強せずに、多言語を聞くとそれらができるようになると考えている。ヒッポのメンバーは「言葉を話す」と言わずに、「言葉を歌う」と言う。同じように天地ファミリーの 20 人ぐらいも多言語で遊んでいる。本稿は天地ファミリーの活動の観察を記述している。

---

<sup>1</sup> Loveday (1983: 212) はこれを「psychological defeatism」つまり「心理敗北主義」と呼ぶ。

<sup>2</sup> 人、町、サークルの名前は大体別名だが、「ヒッポ・ファミリークラブ」や「LEX Institute」は実の名前だ。

## 2. 言語遊びとは

本稿で使っている「言語遊び」とは、遊びや他の自由な活動をしながら言葉を使うことだと定義している。そして、この行動から、自然に様々な外国の言語ができるようになるかと仮定する。人間は聞いたこと、言ったことなどを記憶する。その記憶した内容が学んだことである。つまり、人間は勉強しなくても普段からよくすることを身につける。この定義から、「言語遊び」の目的は勉強ではなく、遊びだということが分かる。その結果、その言語が自然に上達する。

様々な言語学者は「Language play」、つまり「言語遊び」という言葉を用いているが、使い方が少しずつ違う。Nilsen and Nilsen (1977)によると Language play の中に冗談、詩、広告などが入っている。要するに「言語遊び」は楽しく話すことである。また、Hatch (1978, 1980)によると、子供は遊びながら聞いたり話したりする。対話に比べて、遊ぶ目的は決まっていないので、何回も同じ言葉を使い、練習ができる。Hatch は大人も子供のように打ち解けて話すことが習得に良いと示唆する。

近年、Crystal (1998)は Nilsen and Nilsen の言語の遊びと Hatch の遊びの言語を結合させている。Crystal は大人の会話でも子供の会話でも遊びが日常のことで、第一言語の獲得に必要なだと述べる。それだったら、Crystal はどうして授業で遊びがないと異議を唱える<sup>3</sup>。Crystal (1998)は言語の遊びは読み書きを学ぶのに効果的だと明らかにする。同じように第二言語（または多言語）の学びについて遊びが効果的かもしれない。

本節では言語遊びという言葉の説明し、先行研究を簡単に紹介した。次節では天地ファミリーの遊びを紹介する。データはこの遊びが面白いだけではなく、遊びによって外国語が上達することを示唆する。

## 3. 天地ファミリー

### 3-1 フィールド・ノート

本節は天地ファミリーと知り合ったいきさつや天地ファミリーの活動を説明する。次節は会話のデータを簡単に分析する。

2005年の秋に筆者は国際交流基金のホームビジットプログラムで「タナカ」という女の人の家を訪問することになった。同僚と一緒に家に近い駅で落ち合うと、タナカさんは家に連れて行ってくれた。同僚は韓国人なので、韓国語や英語で会話した。

---

<sup>3</sup> Cook (2000)は Crystal に対して、学び、働き、遊びの3つを離して考える。確かに働くことも遊ぶことも似ている点があるが、勉強はその2つと違うと論じる。

タナカさんは夫はいないが、ヒッポファミリークラブのメンバー達の友達と子供と一緒にご飯を食べると述べた。友達は「とまぞう」、「かまちゃん」、「みかん」というニックネームを教えてくれた。天地ファミリーのメンバーはいつもニックネームを使う<sup>4</sup>。国際交流基金からタナカさんという名前を聞いていたのでその日は「タナカさん」を呼んだが、タナカさんも「スカイ」というニックネームで呼ばれる。スカイはヒッポファミリークラブのメンバーは韓国語や英語や他の外国語を学んでいると述べた。しかし、その日には食べながらの会話はほとんど日本語であった。

2006年の正月にスカイの家族に年賀状を送り、ヒッポに興味があると書いた。何日後、スカイはメールをくれて、ヒッポに招待してくれた。

初めのヒッポのミーティングに行ったとき、スカイの夫「タナカパパ」、長男「リュウ」、次男「ケイちゃん」と三男「シン」と知り合った。リハーサル室に行くと皆「Hola」（スペイン語の「こんにちは」）と言ってくれた。その後も一人一人の天地ファミリーのメンバーが来ると、皆「Hola」と言った。

天地ファミリーの毎週の「ファミリー」というミーティングは3つのセクションに分けられる。第1に、初めのセクションはメンバーが来ているときに絵を描いたり道具を準備したりヒッポの話のテープ<sup>5</sup>を聴いたりする。ヒッポの話の中に女の子のホームステイの物語や Transnational College of LEX<sup>6</sup>の科学の説明などがある。メンバー達はテープを聴きながら同じ言葉を言う。7つ以上の言語（中国語、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、スペイン語など）のテープを聴きながらカラオケのようにそのまま同じ言葉を歌う。このようにしてだんだん覚えられると考えている。ミーティングの第2セクションに、「SADA」という活動がある。SADAとは歌を歌ったりダンスをしたり鬼ごっこのゲームをしたりすることだ。あるゲームは外国語と関係がある。例えば、「色」というゲームでは、鬼が外国語で色を言って、皆その色の物を指す。しかし、SADAの目的は外国語の練習ではなく、会の雰囲気になごませる事らしい。第3に、SADAの後皆が地べたに座って、自己紹介をする。子供達は名前、誕生日、家族、家、好きな物などの絵のアルバムを使う。大人は大体そんなアルバムは使わないが、時々使う。自己紹介のパターンは日常のことなので他のメンバーは簡単に分かる。また、言葉が思い出せない場合、メンバー達が助ける。そして、ミーティングの最後に皆手をつないで様々な国語の「さよなら」という言葉が入っている歌を歌う。

時々、「ファミリー」というミーティングの後、他のミーティングがある。例えば、

---

<sup>4</sup>同じように、本稿も別のニックネームを使う。

<sup>5</sup>ミーティングの外でも、ヒッポのテープを良く聴い、歌う。

<sup>6</sup> Transnational College of LEX（トラコレ）を紹介すると長くなる。Transnational College of LEXもヒッポファミリークラブも LEX Instituteの部分である。

<http://www.lexlrf.org/college/index.html> や <http://www.lexhippo.gr.jp/publication/>を参照

筆者が加わった後、歓迎会があった。それに、様々なイベントのための準備会もある。この次のミーティングは他の建物で会うので、また別の雰囲気がある。ファミリーの会話は様々な言葉であるが、次会の会話は大体日本語である。挨拶は特例で、ほとんどは「こんにちは」の代わりにスペイン語で「hola」と言って、「さよなら」の代わりに中国語で「再见」（ザイジアン）と言う。

本節は天地ファミリーとヒッポファミリークラブの活動を簡単に紹介した。次節はミーティングで話したデータを分析する。

### 3-2 データの分析

本節は簡単な談話分析を紹介する。データはミーティングの自己紹介から引用した。

自己紹介は3つのセクションに分けることができる。最初の部分は決まったパターンがある。名前、誕生日（子供の場合）、家族、家、そして好きな事を紹介し、目標言語の「始めまして」という語句を言う。第2に、自由に会話をする。この会話は目標言語か日本語である。第3に、「歌」とは話している人がヒッポのテープの中から一つの歌を選び、それを歌う。皆はテープを良く知っているので、同じ歌を全員で合唱する。

例1では「ヤシ」がスペイン語で自己紹介する。ヤシは何年間かメキシコに住んだので上手にスペイン語ができる。ヤシはいつもスペイン語で話すのは問題だと言っているが、他のメンバーは「no problema」<sup>7</sup>（問題ない）と言っている。

#### 例1: FC001 32:30

- |    |                            |               |
|----|----------------------------|---------------|
| 7  | ヤシ: buenos tardes          | (こんにちは)       |
| 8  | 皆: buenos tardes           | (こんにちは)       |
| 9  | ヤシ: disculpame de hablar   | (すみませんが)      |
| 10 | ヤシ: siempre en español     | (いつもスペイン語で話す) |
| 11 | パパ: siempre en español, sí | (いつもスペイン語、はい) |
| 12 | ヤシ: porque no puede hablar | (他の国語が)       |
| 13 | ヤシ: otra idioma            | (話せないから)      |
| 14 | スカイ: ああ no problema        | (大丈夫)         |
| 15 | パパ: no problema            | (大丈夫)         |
| 16 | ヤシ: pero                   | (でも)          |
| 17 | パパ: pero                   | (でも)          |
| 18 | ヤシ: eh チャドさん               |               |

<sup>7</sup> 普通はスペイン語で「no hay problema」と言われている。それに対して「no problema」は俗語だ。特に英語話者のアメリカ人に使われる。Hill 1998 を参照

- 19 パパ： チャドさん  
 20 ヤシ： ha- hablar (話す)  
 21 パパ： hablar (話す)  
 22 ヤシ： muy bien (良く)  
 23 パパ： muy bien (良く)  
 24 ヤシ： Coreano (韓国語)  
 25 パパ： Coreano, yes yes (韓国語、はい (英語))

ヤシの自己紹介は普通の自己紹介に比べて少し違う。まず、天地ファミリーのメンバーはいつも「hola」と言うが、ヤシは「buenos tardes」と言っている。しかし、他のメンバーが「buenos tardes」と答えていることから、問題がないと考えられる。そして、普通の自己紹介の最初には名前と愛称と家族を紹介するが、ヤシは謝っている。(この後、名前と愛称を紹介する。)

面白い点はタナカパパがヤシの話したことをヒッポのテープを歌う時と同じようにそのまま言っていることだ。この「歌」とはヒッポの国語の上達方法で、繰り返して言うことはタナカパパのスペイン語の学びを助けるのかもしれない。しかしそれが例2を見ると、タナカパパはリュウに違う言葉を話している。

#### 例 2: FC002 18:39

- 59 リュウ： a mi me gusta, (好きなことは)  
 60 リュウ： tocar piano, (ピアノを弾く)  
 61 パパ： piano, (ピアノ)  
 62 リュウ： ski, (スキー)  
 63 パパ： ski (スキー)  
 64 リュウ： fútbol, (サッカー (スペイン語))  
 65 パパ： calcio (サッカー (イタリア語))  
 66 スカイ： calcio? (サッカー?)  
 67 リュウ： カン-  
 68 パパ： calcio, beisbol (サッカー、野球)  
 69 スカイ： beisbol (野球)  
 70 リュウ： beisbol, 将棋, qui- (野球、将棋、)  
 71 チャド： quimica (化学)  
 72 パパ： quimica quimica (化学、化学)  
 73 リュウ： quimica, (.) (化学)

- 74 スカイ: y química. (と化学。)
- 75 リュウ: °y química. ° (と化学。)
- 76 スカイ: ° ヒッポはないね °
- 77 パパ: sí (はい)

例 2 はリュウの「好きなこと」の話を紹介する。自己紹介の間に絵を見せ、家族、住んでいるところ、好きなことなどを紹介する。リュウは、いつもの子供のように、絵のアルバムを持ち、自己紹介のときに好きなことを言って、それらの絵を見せている。最初に、例 1 と同じようにタナカパパがリュウが話したことをもう一度繰り返している (61, 63)。しかし、65 にリュウがサッカーの絵を見せている間、タナカパパは「calcio」(イタリア語の「サッカー」のこと) と言っている。(リュウの「fútbol」はスペイン語の「サッカー」という言葉だ。)そして、タナカパパとスカイはリュウの前に「beisbol」と言っている。例 1 ではタナカパパはヤシが言ったことを繰り返していったが、ここはリュウの前にタナカパパが話している。例 3 でも、5歳の「太郎ちゃん」の前にタナカパパやスカイや太郎ちゃんの母、みかん、が話している。

**例 3: FC002 12:33**

- 70 みかん: °住んでいる所。 I live in° (住む)
- 71 太郎: I are live in (住んでる)
- 72 みかん: I live in (住む)
- 73 パパ: I live in, (住む)
- 74 太郎: I live in, (住む)
- 75 パパ: yeah, (そう)
- 76 (1.5)
- 77 みかん: °[A(市の名前)] city, [B(県の名前)]県 °
- 78 パパ: [B]
- 79 太郎: [B]
- 80 パパ: prefecture (.) prefecture, (県、県)
- 81 みかん: [B] prefecture (県)
- 82 パパ: prefecture (県)
- 83 みかん: prefecture (県)
- 84 太郎: prefecture. (県)
- 85 みかん: ° そうよ °
- 86 パパ: [A] city, (市)
- 87 みかん: °[A] city° (市)

- 88 太郎: [A] city (市)  
89 パパ: [C(町の名前)],  
90 太郎: [C],  
91 パパ: town. (町)  
92 太郎: town. (町)  
93 パパ: Yeah. (そう)

つまり、メンバー達はスペイン語の上手な大人のヤシの話した言葉をそのまま繰り返して言う。しかし、問題を検知する場合、例えば違う言葉が良いと考えているか、子供が話せない場合、相手の前に言葉を提示する。これは子供の相手によって大体良い影響だが、時々問題である。例えば、太郎ちゃんの為にみかんは英語のように市、県と言い、タナカパパは日本語のように県市町と言っている。このデータから、同じ反応でも様々な結果があることが分かる。例えば、ヤシの話もリュウの話もタナカパパが繰り返す。しかし、ヤシの事例の場合にはタナカパパの自分のスペイン語を学ぶことに影響があり、リュウの事例の場合にはリュウの談話に影響がある。

相手の前で言葉を言うことは直接訂正することに対して情緒的な反応があまり悪くなく、話すことを妨げないらしい。しかし、リュウの反応(例2)は少し引込み気味だ。67で言葉がとぎれ、75で声が小さくなる。あるいはもう言った文の内容(化学が好きなこと)を違うイントネーションで繰り返しているのも小さくなったかもしれない。

#### 4. 調査結果と考察

当観察はヒッポファミリークラブ、特に天地ファミリーの活動がほとんど良い結果を引き起こすと示唆する。時間に関して、「ファミリー」というミーティングは文部科学省の小学校の外国語活動に推奨した1年間105-110時間に近い。また、ヒッポのテープを聴く時間も考慮に入れると小学校の外国語活動時間を超える。

本稿の目的はメンバーの言語の熟達度を測ることではないが、データから言語運用の仕方が外国語の学生と似ていることが分かる。さらに、会話しながら習得したので、天地ファミリーのメンバーは学生に比べて会話するのをためらわない。メンバー達とも、外国の人<sup>8</sup>(筆者、ホームステイの客など)ともコミュニケーションができる。

この上、もっと良い結果が見える。ヒッポの活動はモノリンガル・イデオロギを減

---

<sup>8</sup> ある日、準備会で、スカイは「外国語」ということがあるが、「外」がないと言っていた。これから、国際関係に良い影響があるとわかる。

小さくさせるかもしれない。Yamada (1997)は日本の文化にとってモノリンガルは重要で、隠された価値だと述べる。Yamadaによるとアメリカ人になる方法は英語を話すことだ。それに対して、日本語しか話せないとまだ日本人である。つまり、外国語ができないことは日本人のアイデンティティーの要素である。

ヒッポファミリークラブのモット、「7カ国語を話す、日常がある」はモノリンガルイデオロギと対照をする。天地ファミリーのメンバー達は様々な国語を話しながらお互いを支持して、日本らしいコミュニティーを作る。それは外国語や世界に対して良い影響を及ぼすと確信している。

## 5. 結び

以上、本稿では、ヒッポファミリークラブの分会「天地ファミリー」の観察を紹介しヒッポファミリークラブについて、社会言語学の観点から見てきた。その結果、ヒッポファミリークラブで起こっていることを明らかにすることができた。しかしながら、言語遊びの影響、人について、また社会については十分論じることができなかった。これについては、今後の課題としたい。

## 参考文献

- Belz, Julie. 2002. The myth of the deficient communicator. *Language Teaching Research* 6(1): 59-82.
- Butler, Yuko Goto. 2005. English in the elementary school: Current English language education policies in South Korea, Japan, and Taiwan. *Pleiades Journal of TYLE* 1: 49-73.
- Cook, Guy. 2000. *Language Play, Language Learning*. Oxford: Oxford University Press.
- Crystal, David. 1998. *Language Play*. Chicago: University of Chicago Press.
- Hatch, Evelyn. 1978. *Second Language Acquisition: A Book of Readings*. Rowley, Mass: Newbury House.
- Hatch, Evelyn. 1980. Second language acquisition - avoiding the question. In Sasha Felix (ed.) *Second Language Development - Trends and Issues*. Tübingen: Narr, 177-84.
- Hill, Jane. 1998. Language, race, and white public space. *American Anthropologist* 100(3): 680-689.
- LEX Institute. 2006. 7カ国語を話す、日常がある。ヒッポファミリークラブ。(Web page) <http://www.lexhippo.gr.jp/hippo/> Accessed 21 March 2006.
- Loveday, Leo. 1983. The apocalypse of L2 normative ideology: Current



sociolinguistic research in relation to foreign-language learning. *Language Sciences* 5(2): 197-217.

Nilsen, Don and Aleen Pace Nilsen. 1977. *Language Play: An Introduction to Linguistics*. New York: Newbury House.

Yamada, Haru. 1997. *Different Games Different Rules: Why Americans and Japanese Misunderstand Each Other*. Oxford: Oxford University Press.

西野藍 2005 「教室での学習者の母語使用を理解する」西口光一（編著）『文化と歴史の中の学習と学習者』102-122. 凡人社

### 付録：表記法

左の分が転写、右の分は直訳だ。日本語は漢字やひらがなで書い、他の言語はローマ字で書いてある。次の表記が使われる。

ha- hablar	ダッシュ	切った言葉
quimica (.)	括弧したピリオド	短い途切れ
(1.5)	括弧した数	長い途切れ（何秒）
° そうよ °	上つき丸	小さい声
quimica,	コンマ	続くのイントネーション
calcio?	疑問符	疑問のイントネーション
town.	ピリオド	文の最後のイントネーション